

日本人間工学会平成 18 年度総会・第 47 回大会報告(概要)

第 1 日本人間工学会平成 18 年度総会報告(概要)

I. 日本人間工学会第 47 回総会 大久保会長挨拶(要旨)

御挨拶に先立ち最初に本日の日本人間工学会第 47 回大会のご準備、ご主催をして戴いています大会長の大阪市立大学 岡田 明先生と事務局の諸先生・学生・他の皆様方に、人間工学会を代表して心からの感謝を申し上げます。

又、会員の皆様様におかれましては平素学会の諸活動に格別のご支援とご協力を賜りまして厚く御礼を申し上げます。

会務執行に関わる主な点につきましては、後程ご説明いたしますが、先ずもって当学会の各担当理事、委員長、部会長のご努力により諸策を計画、立案、実施し、多大の成果を挙げ学会の発展、活動成果の直接・間接の社会への還元、貢献に寄与していることを報告申し上げます。

詳細は議事進行の中で提案、報告などがあり、これらについて審議が行われると存じますが平成 17 年度の諸活動の要点のみを簡約してご報告申し上げます。

- 1) 昨年度の総会でも申し上げましたように、専任の松尾事務局長を迎えまして、事務局の諸活動に関わる充実、強化が実現出来ました。これを基に皆様のご関心の高いと思われ本学会の社団法人化につきまして、「社団法人日本人間工学会推進委員会」委員を中心に文部科学省と継続的な折衝を行い一日も早い学会法人化の実現を目指して活動を積極的にするとともに、学会内におきましても法人化後の会務を円滑に進めていくための諸内規案の整備を図って参りました。今後とも実現に向けて小生は勿論ですが担当理事・事務局長一致協力して継続的に、かつ粛々と準備を進める所存です。
- 2) 認定人間工学専門家資格認定試験(A 方式・B 方式)につきまして、学会誌等で既にご承知と存じますが、各々試験が実施され、登録手続きを経て新たに 9 名の方々が専門家になられ、我が国においても専門家の方が着実に増えていることは、人間工学の重要性を社会に浸透させるためにも大変喜ばしいことであります。
今後認定工学専門家部会におきましても、藤田部会長、青木副部会長を中心として、既に部会内でご検討いただいた制度に関わる規則の改定や IEA のエンドースメントの取得、新資格制度創設に関わる諸課題を、理事会や会員の皆様方のご意見を参考にしながら検討を進めこれの実現に向けて努力をしていく所存です。
- 3) 昨日、本大会のプログラム一環としての一つとして、「新しい人間工学の世界を探る」のシンポジウムが行われましたが、学会でも昨年 7 月「人間工学技術戦略検討会」を立ち上げ、主査の藤田先生を中心にメンバー 10 名、オブザーバ若干名で構成、2030 年を見通した人間工学の技術戦略について鋭意検討を行なっています。今年の 1 月には、これをテーマに賛助会員を対象とした公開講演会を開催致しましたが、近未来を見据えた、科学や技術の進歩や社会の変化に整合した人間工学の諸活動を積極的に展開すべく、経済産業省のご協力も得ながら取り纏めを進めております。これまでに検討した成果につきましては、来るオランダの IEA 大会で藤田主査に報告をして頂くことになっております。ご関心のある方は是非ともご参加下さいますようお願い申し上げます。
- 4) 会員サービスや広報活動につきましては、学会誌の内容充実と査読の迅速化(加藤編

集委員長)、ホームページ等の内容充実や見易さなどの改善を含めて吉武担当理事等に積極的に取組んでいただき、会員の皆様へのサービス向上に努めておりますので忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。

- 5) 他学会や国際的な連繋の強化につきましては、各々の担当理事の先生に活動計画の策定やその実施をしていただいております。具体的に申し上げますと国内では、安全工学協会との共同活動を通じた関係強化(酒井理事)や日本学術会議との情報交換等の緊密化(青木和理事)を図っていただいております。また、学術団体で構成されている「横断型基幹科学技術研究団体連合会」の会員として、昨年11月に開催された第1回のコンファレンスでも、積極的に参加し斉藤副会長に人間工学に関わる紹介講演などを行っていただきました。

他方、国際的には、IEA活動については御逝去されました秋田国際協力委員会委員長の長年に亘るご努力を基に堀江、土屋、大橋、富田の国際協力委員会の各委員がIEAを含め各国の学会との協力関係の強化のための諸活動行っていただき多大の成果を挙げております。他方、ISO/TC159国内対策委員会(青木和委員長)、人間工学JIS委員会(矢頭委員長)、ユーザビリティ委員会(中野委員長)などにつきましても、委員会諸活動を通じて他学会や他機関への協力、貢献、強化を図りその実を挙げていただいております。

本年のIEA大会は、前述しましたようにオランダのマーストリヒトで開催されますが、創立50周年のエポックメイキング的な年でもあり、学会員の皆様是非ともご参加下さい。

- 6) 最後に、以上で述べさせていただきました学会諸活動の活性化や円滑な運営を支援するための基盤ともいべき財政面につきましては、当然のことながら学術団体の性格上収益を上げることが目的ではありませんが、「出づるを制しながら効率のよい支出をすることによる財政面での健全化」を通して、これを学会の発展と会員皆様へのサービスの向上に繋ぐべく、小木理事・事務局一丸となって努力をして参りました。が、既に昨年の総会、評議員会でご説明させていただきましたように、諸般の事由により残念ではありますが赤字となり会費値上げ不可避の事態になりました。改めて暖かいご理解とご協力に心からの御礼を申し上げます。

今後、財政の健全な運用のための更なる努力をする所存ですので、ご叱責を含めて皆様方の忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。

また、学会の事務局近くにお越しになりました際には学会活動をより身近に感じていただくため、ご来訪を歓迎致しますので、大いに事務局員の方々とのご交流をお願い申し上げます。

ご挨拶とご報告の終わりに当たり、改めて皆様方の暖かいご支援、ご協力と平素の真摯なご助言に対し、心からの御礼を申し上げますとともに、引き続き私達の日本人間工学会の将来にわたる益々の活動活性化とこれを通じた社会への貢献のために倍增のご協力を賜りますよう衷心よりお願いいたします。